

「ふるさといきもの館」を実施して

波多野哲哉（ひとはく連携活動グループ 山東の自然に親しむ会）

はじめに

2009年の夏、人と自然の博物館との共催事業として「地域に生息する身近な生き物」を展示し、自然観察会（川・植物・昆虫）を行った。幅広い年齢層の方に多数来場いただき充実したものとなった。ここでは、その内容と成果、課題などについて報告する。

山東の自然に親しむ会とは

2004年に「ひとはくキャラバン in 山東」が実施され、それを機に山東町（現朝来市山東地区）在住の自然好きが集まり始めた。2005年以降「仮称」として使用をはじめ、その後、「ひとはく連携活動グループ」として正式に登録した。特に規約ももたない、ゆるやかな、自然好きが集う場として活動中。

主な活動として、山東地区内の河川の生物調査、文化祭における「ミニ水族館」展示など。またひとはくとの連携活動として、ひとはくから講師を派遣いただき、植物観察会、川の生き物観察会等を実施している。



経緯

2009年2月、朝来市のギャラリー施設「ヒメハナ公園」から生き物の展示依頼があった。2005年から4年連続して文化祭で「ミニ水族館」を実施していたのが目にとまったようだ。

毎年展示しているのは10月末から11月初旬、今回は7月末から8月中旬。生き物の管理や準備等に多少の不安はあったが、われわれはこのオファーを受けることにした。

今回の企画の目的

朝来市山東地区を中心とした身近な生き物の展示や体験活動を通じて、来館者や参加者に自然の豊かさや大切さを直に感じてもらうことを目的とした。

後援体制およびメディア対応

主催：山東の自然に親しむ会

共催：兵庫県立人と自然の博物館

後援：朝来市教育委員会、竹野スノーケルセンター

協力：円山川漁業組合、山東公民館「ふるさと探検隊」

取材：神戸新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、朝来市CATV、朝来市秘書広報課

環境体験学習・山東公民館「ふるさと探検隊」事業の取り組み紹介

今回、タイアップ事業として「川の生き物観察会」に参加協力いただいた。朝来市山東公民館の教室講座事業として平成8年から継続実施されている。現在の活動目的は「ふるさと山東をよく知る」ということであり、山東地区の自然、産業、歴史などを年間7回程度学んでいる。また、今回は山東地区内の朝来市立与布土小学校の環境学習体験の様子も紹介。その時の授業

の様子や子供達の感想、採集した昆虫標本の一部などを展示した。

◎今回の事業に参加した子供達の感想（ふるさと探検隊隊員）

- ・ザリガニ釣りが楽しかったです。いろいろな魚が見れていい勉強になりました。おもしろかったです。
- ・生き物がたくさんとれてうれしかったです。いろんな生き物の名前がわかりました。やごがいっぱいとれました。
- ・ヒメハナ公園の池にモリアオガエルのおたまじゃくしがいました。イモリやカエルもいました。初めて知った生き物もいました。
- ・トビケラが、口からせっちゃくざいを出すということは、初めて知った。おたまじゃくしもいっぱいいて楽しかった。
- ・たのしかったよ。ありがとう。



各事業の様子と実施状況

この事業を実施する前に、会議を3回おこない、準備及び入念なチェックを行った。

◎展示内容

・水槽による魚類の展示種類等

魚種	数	備考	魚種	数	備考
カワムツ	200	白点病蔓延により途中で総入替	シマドジョウ	15	
オイカワ	50		ナマズ	3	
タモロコ	10		ギギ	3	
カマツカ	25		コイ	3	
ドンコ	10		ギンブナ	10	
タカハヤ	20		ズナガニゴイ	15	
ムギツク	15		メダカ	15	
カジカ	10	3匹竹野産	ブラックバス	3	
カワヨシノボリ	25		タイリクバラタナゴ	5	●豊岡産
ドジョウ	10		アユカケ	2	●竹野産
ナガレホトケドジョウ	5		チチブ	2	●竹野産

※●は町外捕獲（サンプル展示）



・昆虫類展示

区分	
甲虫類	カブトムシ、オオセンチコガネ、カナブン、アオカナブン、シロテンハナムグリ、フタモンウバタマコメツキ、クロタマムシ、キマワリ、チビクワガタ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、ネプトクワガタ、コクワガタ、オオゾウムシ、クワカミキリ、ゴマダラカミキリ、ミヤマカミキリ、シロスジカミキリ、キボシカミキリ、クロゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ミズスマシ
チョウ類	キタテハ、ルリタテハ、ツマグロヒョウモン、ジャコウアゲハ、スジグロシロチョウ
カメムシ類	マツモムシ、ミズカマキリ、アブラゼミ、ニイニイゼミ
ナナフシ類	ナナフシ、ニホントビナナフシ
アミメカゲロウ類	ウスバカゲロウ、アリジゴク(ウスバカゲロウの幼虫)
バッタ類	キリギリス、ヤブキリ、コロギス、ショウリョウバッタ、オンブバッタ
トンボ類	オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、ハグロトンボ
ガ類	ヤマユガ(まゆ)

・昆虫標本の展示

区分	種数	標本数	区分	種数	標本数
トンボ	60	305	ゴキブリ	6	20
甲虫	680	2,220	カマキリ	7	65
チョウ	103	1,416	ナナフシ	4	27
ガ	338	655	バッタ	41	77
カメムシ	62	223	ハエ、アブ	38	64
アミメカゲロウ	14	69	ハチ	64	101
トビケラ	11	19	その他	12	17
カゲロウ	5	21	計	1,507	5,299

※ミニ標本箱+コラムを6セット作成。(内、3セット今回展示)
 ※朝来市山東地区での採集がほとんどであるが、国内外で旅行中などに採集したものも含む。
 ※未同定や同定ミスもあろうかと思ます。おおよその数とお考えください。



◎イベント

1. 川の生き物観察会 (2009. 8. 2)

講師は人と自然の博物館研究員 田中哲夫先生。前週から天候が安定せず、当日も川が増水していたため、はじめに展示している魚類を中心に説明をいただいた。非常に楽しかったのは、魚それぞれのベーシックな解説だけではなく、その魚がどのような味が、またどのような料理に利用されているかといった「食文化」におよんだことだった。先生のおっしゃられた「まずい魚をいかにして美味しく食すか、これが文化だと思います！」という言葉が今も心に残る。続いて、ヒメハナ公園内の人口の川（公園が整備される前はおそらく細流だったであろう）で生き物観察を行う。意外とさまざまな生き物がいて、またそのいきものについての先生のコメントが楽しく、時間がすぐに過ぎてしまいました。



2. ヒメハナ公園内の植物観察会 (2009. 8. 8)

講師は人と自然の博物館研究員 石田弘明先生。前日までは雨だったが、当日は天候もよくほっとした。ヒメハナ公園内の植物観察ということで、特に希少な植物が見られたわけではないが、身近な植物の名前とその由来、特徴、エピソードをたっぷり説明いただき、とても充実した観察会でした。オッタチカタバミで10円玉を磨くと、ピカピカになる実演にも一同びっくり！



3. 夜の昆虫観察会 (2009. 8. 8)

講師は波多野哲哉、司会進行は戸田全彦（ともに山東の自然に親しむ会メンバー）。8月1日予定だったが雨天のため順延。7月末から地元の企業からの協力もあり、工事用足場を横幅10m高さ5mのスクリーンさながらのライトトラップ設備が完成。そこに夜間工事用投光機2機が出動。ガンガンに照射しましたが、あまり虫はよってきませんでした。敗因は、①設置場所の選定（林縁部から少し離れた公園中央広場だったこと）②ブラックライトや水銀灯ではなかったこと。（光の波長が虫達にとってお気に召さなかった）③天候不順で肌寒かったこと（今年は日照時間が非常に少なかった）などが考えられる。しかし、地元の企業の協力と発案で行ってみて、これはこれでよかったと感じる。なぜならば、大人が全力で楽しむ、大掛かりに真剣に遊ぶことは子供にもよい意味で伝わると思う。観察会というよりお祭りに近かったがよい経験になった。



結果と感想

◎来場者数、イベント参加者数

展示：延べ1,382人

(12日開催、1日平均約110人)

※11日間で1382人ももの来館者が訪れました。

川の生き物観察会：31人

ヒメハナ公園の植物観察会：11人

夜の昆虫観察会：60人



◎来場者、参加者の感想

- ・メダカやドジョウがとてもなつかしい。(福知山市)
- ・虫や魚、鳥の鳴き声など、優しく教えてもらえて、小さい(子)ながらに興味を膨らんだみたいで良かったです。(町内)
- ・いろいろな種類があってすごかった。カワムツのさかなの色がきれいだった。(大阪市)
- ・ドンコがおおきくなったらあんなに大きくなるとわかった。(神戸市)
- ・本物はすばらしい！(香美町)

※夏休みということも手伝って、市内、町内、但馬各地のほか、大阪、京都、神戸、奈良、埼玉など市外からも多数ご来場いただきました。

◎反省会の実施

8月23日、山東公民館で反省会を行った。反省点は以下のとおり。

- ・観察会のときに子供が聞く態度を早く整えられなかった。もっとスタッフが先生をフォローすべき。
 - ・展示の生き物が砂や物陰に隠れて見え辛かった。
 - ・夏で長期間の展示だったので、生体展示が非常に困難だった。
 - ・11日間、誰かが展示当番で付き、説明やメンテナンスを行ったことは成果だった。
- なお、反省会当日は、ナマズの試食会も同時に開催し、蒲焼風のムニエルに舌鼓！

◎山東地域の川、植物、昆虫の状態、生物相の特徴

河川は、円山川の一支流として上流にあたる。昭和33年に発生した伊勢湾台風以後、河川改修が進み、「川の連続性の分断」（落差溝による下流からの生物の遮断もしくは阻害）が顕著であり深刻である。すでにスナヤツメ、タナゴ類は姿を消し、アカザやヤマメなども姿を消しつつある。

植生は現在、コナラ・アカマツ等が優占樹種ではあるが、ずっと以前には照葉樹林帯であり、シラカシやスダジイが繁茂していたと予想されるという。（石田弘明研究員講義より）

昆虫相は、植相の変化や気候の変化に伴い、流入や消滅を繰り返してきたと考えられる。環境や条件さえその種の生活に合致すれば爆発的に増加することを考えれば、身近な森の中に、われわれが思う以上に多くの生き物が細々とであっても力強く生存してくれていることを願っている。

なお、外来種として、オオグチバス、ブルーギル、アライグマ、ヌートリア、アレチボロギク、ブタクサなどの流入、他にはニホンジカの急激な増加など気がかりなことは多い。

◎研修として～人材育成の観点から～

展示、イベント各部門に担当責任者を配備し、スタッフ各人の責任感と目的意識を明確に出来たことは評価できる。（統括、渉外、広報、展示、会計、庶務、各観察会）また、観察会等では記録（記述）をとったり、来場者へ展示の説明を行ったことで学ぶ機会も増えた。

◎共催のメリット

- ・ 備品の貸し出し、運搬の補助

90cm水槽や展示ブースは非常に効果的。しかも研究員の先生にお手伝いいただいて恐縮でした。

- ・ 研究員の講師派遣

イベントにおいて、専門の研究員のかたが来て頂けるのは非常に有効。我々も勉強になる。

- ・ 後援名義使用の威力

公的機関や多くの団体からの支援を表明することはその会の開催の信頼度を大きく上げると感じた。

おわりに

今後の活動として、やはり、住民と関わる活動を継続していくことが大切だと考える。特に次世代を担っていく子供たちには少しでも多くの地域のすばらしさを感じてほしい。そのためにわれわれがすべきことは、「真剣に遊ぶ」こと。こどもには、大人の真剣な遊びから本当に大事なことがたくさん伝わる、ということが最近よくわかってきた。その遊びの場のひとつとして、可能な限り当会は機能していきたい。

◇映像資料・写真提供◇

鳥類関係：増田克也氏

昆虫関係：山下博氏

活動関係：藤本邦彦氏、藤本和代氏、南光美津子氏ほか